

事業所における自己評価結果

公表日：令和8年2月26日
事業所名：子どもの家エラン

事業所名：子どもの家エラン
職員数5名 回収数5名 割合100%

	チェック項目	はい	いいえ	未回答	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100% (5)	0	0	メインの指導室以外にも子どもたちがのびのび体を動かせる場所やお庭があります。午前クラス、午後クラス共に、お子さんたちに適切な支援ができるようなスペースを確保しています。	引き続き、お子さんに合わせた適切な発達支援が行えるよう、模様替え等を行い、スペースを最大限に有効活用できるよう努めてまいります。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	60% (3)	40% (2)	0	振り返りを密に行い、職員一人一人の支援力アップを目指しています。また、お子さん一人一人により良い支援が行えるよう、クラス中職員がお互いに声を掛け合って、チームでの支援を実施しています。	2025年度は、職員数は基準を満たしていたのですが、お子さん一人一人に合わせた行き届いた支援を行うためには職員を増やすことが望まれる状態でした。新年度は職員数を増やし、よりきめ細かい支援に努めてまいります。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100% (5)	0	0	子どもたちの理解力の伸びや成長に合わせて部屋のレイアウトを変える、子どもそれぞれに使いやすいよう物の配置を変える、必要などころに注目を向けやすいよう、余計なものを出しておかないなど、空間設定に気をつけています。各エリアでは、欲しい玩具を職員に要求できるよう、玩具の写真カードをボードに貼って各エリアに設置するなど、お子さんからの情報発信がしやすくなるように工夫しています。活動ごとにエリアを変えることで、活動の終わりをわかりやすく、切り替えがしやすくなるよう工夫しています。場所移動のためにお子さん一人一人に合わせたスケジュールを用意し、自分で次に何があるのか理解して活動に参加できるようにしています。	今後もお子さん方の成長に合わせて、その時最適な空間を提供できるよう、環境設定を工夫していきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100% (5)	0	0	2020年度より、午前クラス・午後クラスが終わるたびに使用した教材・玩具・机・椅子・棚等の消毒と部屋(指導室・トイレ・玄関など)の清掃を徹底しています。お子さんが過ごす場所の清潔を保つことと、感染症予防に努めています。静かにリラックスして過ごすスペース、集中するためのスペース、大きく体を動かせるスペースなど、活動によって場所を分け、一人一人が心地よく過ごせるように工夫しています。	引き続き、感染予防に注意を払いながら、お子さんが安心して心地よく過ごせる空間づくりを行ってまいります。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100% (5)	0	0	気持ちが落ち着かないときや一人になりたいときに過ごせるリラクスのスペースを用意する、周囲の人の動きや声に気が散って集中しにくい方に対して人の少ない静かな部屋に個別の学習スペースを使用する、たくさんの方が目に入ると落ち着かなくなるお子さんには机の向きを工夫するなど、必要に応じて個別の部屋や場所を提供しています。	お子さん一人一人が必要に応じて個別と集団の場所を使い分けながら活動ができるよう、部屋・場所の確保やプログラムの工夫に一層力を入れていきます。
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100% (5)	0	0	クラス前の朝礼、クラス終了後の振り返りに支援者全員が参加し、課題や改善点を話し合い、翌日/翌週のクラスにいかしています。翌月の活動内容を話し合う月に1回の月案会議にも、支援に入る全ての職員が参加し、お子さんの現状共有と翌月の支援方針の再設定を行っています。支援者のスキルアップのために、日々それぞれのその日の目標を提出し、助言を受ける取り組みも始めました。	引き続き支援に入る職員全員が朝礼・振り返りに参加し、PDCAサイクルに参画するよう努めてまいります。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100% (5)	0	0	保護者向け事業所評価表の内容をもとに、毎年業務内容や次年度の計画、保護者への情報の周知方法を見直しております。行事や保護者勉強会を実施した後もアンケートを実施し、保護者の意向を把握できるよう努めています。	今年度も、いただいた意見を職員全員で確認いたします。次年度、より良いサービスが提供できるよう努力してまいります。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100% (5)	0	0	年2回のスーパーバイザーとの面談や、常務理事との不定期面談の中で、職員の意見を把握する機会を設けています。また、毎日職員個人の振り返りを書面で提出する中で、課題を把握するよう努めています。そこから浮かび上がった課題の解決・改善策を考えることで、業務改善に取り組んでいます。	日々の業務で慌ただしく、職員一人一人からじっくりと意見の聞き取りができていない部分を、振り返りペーパーの導入でカバーしています。引き続き、職員の意見を生かして業務の改善を図りたいと思っております。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	40% (2)	40% (2)	20% (1)	第三者による外部評価は行っていません。ただ、保護者や実習生、ボランティアがクラスの様子を自由に見られるようにし、保護者は月に1回の見学日にクラスに設置しているカメラの映像をモニターにて確認できるようにするなど、外部の目が入る風通しのよい環境づくりをしています。また、月に1回SVの先生を招いて支援内容を相談する、事業所内部での対応が難しいケースは外部の専門家に紹介して対応を相談するなど、事業所内部だけでケースを抱え込まないよう心がけています。	現在第三者評価を行っていませんので、今後検討していきます。また、第三者評価についての職員の理解が不十分でしたので、情報の周知を徹底いたします。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100% (5)	0	0	法人内の放課後等デイサービスと合同で年に2回、実践報告会と講師を招いた勉強会を行っています。また、区で実施している研修会、各職員の知識レベルに合わせた外部研修の受講をすすめ、研修費を補助するなど、研修受講の機会を確保しています。	新年度、新職員を迎え、職員同士支援についての共通言語を持てるよう、研修の機会を充実させ、より良い支援につなげてまいります。
11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100% (5)	0	0	5領域を網羅し、変化に富んだ支援プログラムを作成し、ホームページ上に公表しております。	引き続き、お子さんが発達段階にあった経験を積んでいけるよう、支援プログラムを改善してまいります。	
12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100% (5)	0	0	お子さん一人一人の特性と興味関心を日々の生活から評価し、保護者から日常のご様子やご希望を伺ったうえで、児童発達支援計画を作成しています。	引き続き、発達検査・知能検査などのフォーマルなアセスメントと、日々のお子さんの行動からインフォーマルなアセスメントを行い、お子さんと保護者のニーズに合った計画を作成していきます。	
13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100% (5)	0	0	作成にあたって、日々の振り返りの中で検討された課題を児童発達支援計画に反映しています。お子さんにかかわるすべての職員が計画に目を通し、内容に誤りや漏れがないかを確認しています。	お子さんにかかわる職員全員で支援目標、支援方法を共有して支援にあたることを継続していきます。	
14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100% (5)	0	0	日々の振り返りチェック表に、お子さんの現在の支援目標を記載して職員に共有しています。支援後、それを見ながら当日の様子を振り返り、翌日以降の支援方法のすり合わせや、必要であれば目標の変更について話し合いを行っています。	支援計画の更新と振り返りチェック表の支援目標の更新がずれることがありました。次年度は更新のずれをなくし、日々お子さんの現在の目標を全職員が把握したうえで支援にあたれるようにしてまいります。	
15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100% (5)	0	0	お子さんの日常生活や課題への取り組みを通じたインフォーマルアセスメントと、保護者からの生活場面での様子聞き取り、KIDSなどのフォーマルなアセスメントを組み合わせて、支援計画を組み立てています。	適応行動をアセスメントするのにより適したフォーマルなツールの導入も視野に入れながら、引き続き、お子さんの事業所での日常の様子からのアセスメントと、保護者のニーズを合わせて、お子さんへの適切な支援計画の提供を行ってまいります。	

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「本人支援」「家族支援」「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100% (5)	0	0	全てのお子さんに対して、児童発達支援ガイドラインに基づき、「本人支援」「家族支援」「移行支援」「地域支援・地域連携」で示す支援内容から、必要に応じて具体的な支援内容を設定した支援計画作成を心掛けました。	お子さん・ご家族の日々の生活が充実するよう、支援目標を踏まえた具体的な支援方法を定め、事業所で実施してまいります。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100% (5)	0	0	毎月の月案会議で、支援に携わる職員が当月の活動の報告を行い、それを踏まえて次月の活動プログラムの立案と指導方法の相談を行っています。行事や季節ごとの制作・音楽会など活動ごとにも全体で話し合いの場を設けています。プログラム毎に役割分担がされていますが、活動プログラムは職員それぞれが案を出し合って作成し、準備や実施は協力して行っています。	引き続き、活動プログラムの立案をチームで行うことで、お子さん一人一人に合った質の高い支援が行われるよう努めてまいります。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100% (5)	0	0	スケジュールや活動が固定化しないよう、日々活動に変化を持たせるよう心掛け、月に一度、子どもたちの成長に応じて各活動の内容を見直しています。スケジュールの変更・中止なども、計画的にお子さんに合わせて教え、柔軟なプログラム提供を行っています。感覚・運動遊び、音楽・リズム遊び、制作、ゲーム、散歩などを季節やお子さんの成長に合わせて様々な内容で行っています。お集りの歌教材や手遊びも、お子さんが覚えて楽しめるよう、かつ飽きないように、入れ替えて提供しています。	活動プログラムが固定化しないよう、職員一人一人の専門性と得意を生かした幅の広いプログラム作りに取り組んでまいります。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100% (5)	0	0	全員に、個別と集団の活動目標と活動内容を設定しています。集団活動については、お子さんそれぞれの発達や社会性のレベルに合わせて、内容やグループ編成、グループ人数、参加時間を考え、無理なく支援目標を達成できるよう工夫して計画を作成しています。	引き続き、お子さんに合わせた個別活動と集団活動を組み合わせる支援計画に盛り込み、実際のクラスで行ってまいります。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100% (5)	0	0	通園クラスは当日の朝礼時に15～30分の時間を取って、通所クラスはクラス開始前に、支援プログラムや当日の支援の注意点、職員配置と役割分担、前日(前回)のヒヤリハットや支援の改善点について、支援に携わる全員で確認しています。	お子さんの安全の確保と充実した支援のために、事前の打ち合わせを徹底してまいります。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100% (5)	0	0	クラス後、支援に携わった職員全員で1時間程度の振り返りの時間を持っています。安全面での配慮(ヒヤリハット)やお子さんができるようになったこと、支援の改善点について共有・記録し、次のクラスに活かせるよう体制を整えています。	引き続き、支援終了後の情報共有の体制を維持、改善し、より良い支援につなげてまいります。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100% (5)	0	0	クラスの振り返りの中で、各プログラムの様子、お子さん個別の様子について記録を行い、支援の改善につなげています。支援がうまく行かない場面、気になる行動がある場面では、原因解明のために場面に特化した記録をつけ、支援の検証と改善を図っています。	引き続き、職員一人一人が記録の重要性を知り、日々の記録の徹底とそれをよりよい支援につなげられるよう努力してまいります。
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100% (5)	0	0	保護者の方とモニタリングを行い、お子さんの成長とご家庭での様子を共有したうえで、保護者の意見や要望を入れて次の児童発達支援計画を作成しています。	モニタリングとモニタリングの間にも、お子さんの成長に合わせてこまめに目標を設定していますが、支援計画に記載されていない部分と、保護者とのモニタリング時間を十分に確保できない部分があったことが課題です。短いスパンでモニタリングと支援計画の更新ができないか、検討していきます。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	80% (4)	0	20% (1)	全てのお子さんの状況を児童発達管理責任者が把握し、会議に出席しています。	引き続き、お子さんのことを理解した職員がサービス担当者会議に出席し、充実した支援につなげていけるようにいたします。
	25	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100% (5)	0	0	併用・通所クラスの方については、園からの見学受け入れ、園への事業所職員の見学などを通じて連携を実施しています。小学校との情報連携として、「すばる」での情報提供も行っています。	職員の人手不足で、保護者からの依頼があった際にすぐに園訪問ができず、保護者に歯がゆい思いをさせてしまいました。職員配置に余裕を持たせ、スムーズに地域との関係機関との連携を行い、お子さんが利用しているすべての場面で楽しく過ごせるように力を尽くしてまいります。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100% (5)	0	0	併行利用先・移行先と連携を取って、エランの職員が先方に訪問する、先方からエランに見学に来ていただく、支援計画書を保護者から先方に提出していただく、連絡帳を使って当事業所での支援内容を共有し、先方からは園の様子について書いて戻していただくなど、情報共有に努めています。	引き続き、併行利用先・移行先でもお子さんが安心して過ごせるよう、保護者と協力して他機関と情報共有を図ってまいります。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	80% (4)	0	20% (1)	区指定の就学支援シート(すばるⅡ)の作成を通じて学校への情報共有を行っています。	就学先でお子さんが安心して新生活を送れるよう、引き続き情報共有に努めてまいります。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。					
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。					
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	80% (4)	0	20% (1)	今年度はスーパーバイズや助言を受ける機会はありませんでしたが、施設間研修でセンターの職員の実習受け入れを行い、エランでの実践を見ていただく、センター主催の支援者向け勉強会に職員が参加するなど、連携を図っています。	困難ケースについてはスーパーバイズをお願いする、職員がセンターに伺って実践を見ていただく、センターで実施している医療相談を保護者の方にお知らせして、必要な方に利用していただくなど、センターのお力を借りながら支援を実施していきたいと考えています。	
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	60% (3)	20% (1)	20% (1)	特定の園との公的な交流は企画できませんでしたが、近隣の公園に遊びに行った際に、その公園を利用されている他園の児童と自然な形で交流させていただくことができました。園と併行利用されている方については、エランの職員が先方に訪問する、先方からエランに見学に来ていただく、支援計画書を保護者から先方に提出していただく、連絡帳を使って当事業所での支援内容を共有し、先方からは園の様子について書いて戻していただくなど、情報共有に努めています。	引き続き、地域の公園で遊具を共有するといった形での交流を実施してまいります。また、今後公的な交流について検討してまいります。	

保護者への説明等	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	100% (5)	0	0	通園クラス・併用クラスでは、基本的に月に1度面談を行い、お子さんの情報共有を行っています。日々の様子については、連絡帳や保護者との交換ノートであるスマイルノートを通じて紙面上で共有しています。送迎をされている保護者には、お子さんの引き渡しの際に直接お伝えする時間を取っています。通所クラスでは、連絡帳を通じて幼稚園・こども園・保育園とより詳しい情報共有ができるよう、利用日の詳細な支援内容とお子さんの様子を連絡帳に記載しています。保護者とは、クラス前後に日々の気になる点や困りごとを共有するとともに、連絡帳の内容についてお話ししたり、お子さんの状況やクラス内容について伝えたりする時間を取っています。それ以外にも、必要に応じてLINEや電話にて日々の状況の共有を行っています。	通園クラス・通所クラスと共に、引き続き連絡帳や面談でのきめ細かい情報共有を行ってまいります。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100% (5)	0	0	自閉症の特性を知るための勉強会、各家庭での工夫を共有する勉強会、父親向けの勉強会等、保護者勉強会を複数回実施しました。卒園生保護者に就学についてのお話を聞く機会も企画しました。就学を控えた利用者に向けて、就学先の検討に役立つ資料をまとめて提供しました。役立ちそうな外部研修の情報もご家族に提供しています。	ペアレントトレーニングは実施予定でしたが、職員の補充不足のため開催ができませんでした。次年度の開催を目指しています。また、保護者のニーズに合った支援プログラムを充実させていきます。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100% (5)	0	0	契約時に丁寧にご説明しております。内容に変更があった際はその都度、書面をお渡ししてご説明し、サインをいただいています。	引き続き、丁寧な説明を心掛けてまいります。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100% (5)	0	0	支援計画は、児童発達支援ガイドラインに基づき、お子さん一人一人に合わせて作成しております。また、作成したものを保護者と確認したうえで、保護者のご意見を入れて完成版を作成し、同意のサインをいただいております。	引き続き、お子さんに合った支援計画を作成し、保護者へのご説明を行ってまいります。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100% (5)	0	0	支援計画を見発管、保護者で確認しながら支援内容についてご説明を行い、サインを頂いています。	今年度、作成した児童発達支援計画を保護者にご説明する時期が遅れてしまうケースがありました。次年度はご説明時期が遅れることの無いよう注意し、丁寧にご説明に努めてまいります。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100% (5)	0	0	通園クラス・併用クラスでは、基本的に月に1度30分以上の面談を行い、お子さんの情報共有とご家庭での課題への助言を行っています。通所クラスでは、クラス前後に日々の気になる点や困りごとの共有、お子さんの状況やクラス内容についての伝達時間を取っており、まとまった時間のご相談の希望があれば時間を取って面談を行っています。	通園クラス・併用クラス・通所クラス共に、引き続き保護者のニーズにこたえて面談を実施してまいります。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100% (5)	0	0	通園クラスでは月に1回、懇談会が保護者勉強会を実施し、保護者同士つながりが持てる機会を設定しました。通所クラスはクラス時間中の待機室での待ち時間で交流を持っていただいています。ホームカミングデイや園庭開放では、利用クラスや卒園児の垣根を越えた交流の場を提供しました。同様に、利用者全体や、卒園児も含めた保護者勉強会も実施し、その中でお互いの情報交換ができるよう場を設定しました。仲間づくりのしづらい父親向けの勉強会も実施し、ご好評いただきました。就学前後の情報や放課後等デイサービスの情報を得られるよう、卒園児の保護者から話を聞く会も実施しました。きょうだい児に特化したイベントは実施していませんが、ホームカミングデイ、夏祭りや遠足、園庭開放などはきょうだい参加可能なイベントとして開催しています。	引き続き、保護者同士のつながりが持てる機会やごきょうだいも参加できるイベントを設定してまいります。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100% (5)	0	0	苦情対応窓口を設置し、重要事項説明書の説明の際に保護者に周知しております。申し入れのあった際には職員全体で共有し、迅速に対応しています。法人に第三者委員会が設置されており、そちらにもご相談いただけるような体制を整えています。LINEを活用することで、保護者が気軽に相談できる環境を作っています。	引き続き、ご相談やお申し入れに対して速やかに対応できるよう努めてまいります。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100% (5)	0	0	月1回「エラン通信 はばたき」というお便りを発行し、活動予定や概要、日程を保護者に発信しております。よりきめ細かい情報発信ができるよう、通園・通所のクラス別に発行しています。日々の細かい連絡についてはLINEも利用して必要情報を連絡しています。	保護者に活動内容を十分把握していただけるよう、「はばたき」や書面でのお知らせを活用していきます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100% (5)	0	0	書類は鍵のかかるキャビネットに保管し、紛失や漏洩等の事故が起こらないよう日々努めております。クラス内やイベント時の写真や動画の取り扱いについても、保護者の方に確認と同意を得た上で行っています。	引き続き、個人情報の管理を徹底してまいります。
非常時等	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100% (5)	0	0	口頭だけでなく、イラスト・写真・文字など見てわかる媒体も使用して、お子さんに大人側の意図がわかりやすいように心掛けています。また、発語のないお子さんや言葉でのやり取りに困難を持つお子さんに対しては、絵カードやその他のアイテムを活用してコミュニケーションをとっています。	お子さん・保護者に必要な情報をわかりやすくお伝えできるよう、専門性の向上と配慮を心掛けてまいります。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	80% (4)	20% (1)	0	今年度も、例年同様夏祭りの花火の実施を近隣にお知らせして、近隣の方に見に来ていただきました。	地域に開かれた事業運営のために何ができるか、引き続き検討してまいります。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100% (5)	0	0	利用の最初にお渡しする冊子で各マニュアルについて概要を記載しています。また、職員の内部研修にて発生時を想定した訓練を実施しています。	引き続き、マニュアルの充実と訓練を実施してまいります。
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100% (6)	0	0	一昨年度策定した感染症BCP・自然災害BCPを更新して研修を実施しています。	引き続き、現状に合ったマニュアルの整備を図るとともに、実際場面で活用できるよう、研修や周知を徹底していきます。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100% (5)	0	0	契約時にご提出いただく情報シートの中で、服薬・予防接種・てんかん発作等の状況について確認しています。対応が必要な内容のある方には、与薬シートを記入いただくなど個別に保護者と相談の上対応しています。	引き続き、お子さんの健康・安全にかかわる情報は職員間での周知を徹底して対応致します。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100% (5)	0	0	契約時にご提出いただく情報シートの中でアレルギーについて確認し、その内容を職員全体に周知しております。医師の指示書を直接確認はしていませんが、保護者から頂いた情報をもとに対応しています。事業所内で食べ物を提供する際は、できる限り事前に保護者に確認してから提供するようにしています。	お子さんが事業所内で安全に過ごせるよう、保護者と連携した配慮を継続いたします。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100% (5)	0	0	通園クラスでは月1回程度、通所クラスでは年2回、地震・火事などを想定した避難訓練を行っています。	どのような場面でも対応できるよう、時間・場所や訓練内容に幅を持たせた訓練を引き続き実施いたします。

寺の対応	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100% (5)	0	0	避難訓練の実施については、午前クラスでは毎月のお知らせに日程を掲載しています。避難訓練当日、親子登園日や懇談会等で来所の保護者は、訓練に参加していただくようにしています。安全計画については入園時に配布する「ごあんない」にも掲載しています。訓練や安全確保に関する情報は、年度初めの保護者会において、口頭でご説明する時間を設けました。	引き続き年度開始時の保護者会で安全計画についてご説明するなど、情報周知を徹底してまいります。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100% (5)	0	0	事例集という形にはしていませんが、日々ヒヤリハットについて記録し、再発防止に向けて必要な方策を常勤職員全員で検討し、共有しています。また、前日のヒヤリハットについては翌日にも確認しています。	職員がいつでも見やすい形の記録にできるよう、記録の方式について検討してまいります。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100% (5)	0	0	毎年、虐待防止に関する区主催の外部研修への参加を行っています。また、虐待防止委員会を設置して定期的に委員会を開催しています。年に1回以上虐待防止の内部研修を行い、支援者としての倫理や制度上の知識を共有しております。	虐待防止委員会の定期的な開催、職員研修など、虐待の予防と早期発見のためにより適切な対応ができるよう、引き続き実施してまいります。今後は児童への性暴力防止についても研修に取り入れていく所存です。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100% (5)	0	0	現状身体拘束を実施しているケースはありませんが、身体拘束適正化についての指針を作成し、HPに掲載しています。その中にも記載のある通り、身体拘束が避けられない場合は、必ず事前に保護者に確認し、児童発達支援計画に記載の上で了解を得ることを職員内で確認しています。	引き続き、職員研修を行い、人権と安全に配慮した支援ができるよう職員一同努めてまいります。